

2024年度 派遣・受入留学プログラム実施報告

2024年度の留学環境は、昨年度を上回る多くの本学学生が長期・短期ともに様々な留学プログラムを活用して海外に飛び立ったと同時に、前年度に引き続き、海外から多くの留学生を受け入れた。交換留学では、世界35カ国に約350人を派遣し、2025年度に出発する学生は、さらに増える見込みだ。

長期休暇中の短期プログラムについては、夏期は語学講座11コース、短期研修7コース、実践型プログラム6コースに計307人が参加、春期は語学講座11コース、短期研修4コース、実践型プログラム4コースを実施し、計270人が参加した。短期プログラムは海外に限らず国内で実施することもあり、長期留学に比べて参加しやすく、多様でグローバルな学びの機会になったとの声を聞くことが出来た。

交換留学受入生については、春学期・秋学期ともに300人を超える学生が新たに渡日し、依然として増加傾向にある。留学生たちは本学で授業を履修するかたわら、英語落語などの文化体験

イベントやNPO法人アルペなんみんセンターでのボランティア、本学学生団体が主催する交流イベントやサークル活動にも参加し、充実した時間を過ごして帰国した。

また、12月と1月にはグローバル教育センター学生職員の企画によりSophians' Loungeを初開催。留学希望者と現地出身の学生が連絡先を交換する場面などもあり、在學生と留学生が気軽に交流できる場として学生の満足度も高く好評だった。

大学では、グローバルな学びの更なる促進のため、様々なプログラムの提供や多方面での支援を続ける。一方、世界情勢は常に不安定であるため、留学希望者は、引き続き日本および滞在予定国の感染症や治安面のリスク、自身の語学力や危機管理対応能力の有無も慎重に見極めながら留学計画を立てることが不可欠との自覚を持ち、多様な留学機会に積極的にチャレンジしてほしい。ここでは交換留学(派遣)および海外短期プログラム参加者の体験談を紹介する。

国際原子力機関 (IAEA) グロッシェ事務局長来校

今後の連携強化に向けた協定を締結

2月20日、ウィーンに本部を構える国際原子力機関(IAEA)より外務省賓客として来日したラファエル・マリアーノ・グロッシェ事務局長が四谷キャンパスを訪問し、本学との今後の連携に向けた「協力に関する覚書(Practical Arrangements)」の署名式および在學生との交流会が開催された。

今回の交流は、今年1月、暁道佳明学長がIAEA本部を訪問し、現地で事務局長特別補佐官の金子智雄氏と、本学学生のインターンシップ派遣の可能性について協議したことを契機に実現した。

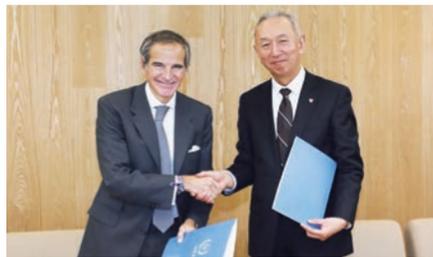
「協力に関する覚書」の締結に際し、今後本学とIAEAが、国際社会への貢献を目的とし、人材交流や研究活動をはじめとする様々な面で協働していくことが確認された。

続く交流会には、国際関係論や環境分野を専攻する学生を中心に、15人の大学院生と若手研究者が参加。国際協力人材育成センター所長の植木安弘特任教授司会進行のもと、グロッシェ事務局長よりIAEAの最新の活動内容を概説する基調講演が行われた。

後半の懇談では、アフリカ地域でのがん治療への支援状況や、福島ALPS処理水の環境データ開示の手法について等、学生から多様な質問があり、グロッシェ事務局長からは、現状の問題点や今後の展望を含めた具体的な回答があった。



在學生との交流会ではさまざまな質問が飛び交った



署名式では今後の協働が可能な分野と目的が改めて確認された

閉会にあたり、グロッシェ事務局長は、「国際協力や国際機関との連携に積極的に取り組む大学で学び、研究できることは非常に恵まれています。この環境や機会を活かし、将来に向けて引き続き努力されることを期待しています」という言葉で学生たちを激励した。

本学は、今回の「協力に関する覚書」の締結により、インターンシップ協定の締結や更なる連携強化に向け、引き続きIAEAと共に取り組んでいく。

教皇フランシスコ来学記念表彰 個人表彰3人・団体表彰3団体が受賞

3月4日、「2024年度(第5回)上智学院教皇フランシスコ来学記念表彰式」がカトリック・イエズス会センターで執り行われた。

上智学院は、2019年11月に教皇フランシスコが本学を訪問された記憶を永くとどめるために「教皇フランシスコ来学記念基金」を創設。基金は、教皇のメッセージ「叡智の座の大学で学ぶ者へ」に示された、さまざまな課題への取り組みを支援するものであり、貧困や社会的弱者の課題、多文化共生社会の実現などに取り組む活動が広がることが目的とする。

今回は、個人表彰3人と団体表彰3

体験談 交換留学

(フランス・リール大学)
東田 啓汰(外仏4)

リール大学で

は、現地学生向けの授業を履修していたため、留学当初は授業を理解するのに大変苦労しました。そこで、教授や友人から助言を貰いつつ、先生に許可を取って授業内容を録音し、復習することを10カ月間、欠かさず続けました。

学業以外の面では、日仏交流学生団体の活動や移民難民支援を行うNGO団体でのボランティアに参加しました。また、文部科学省トビタテ！留学JAPAN新・日本代表の同期15人と共にパリにて日仏学生映画祭の企画・運営を行いました。留学中、何度も壁にぶつかり挫けそうになりましたが、「やらぬ後悔よりやる後悔」という言葉を胸に、チャレンジし続けた10カ月間でした。この留学を通じて、失敗を怖がらずに自ら行動を起こし挑戦する重要性を学ぶことが出来ました。

今後は、留学中に「Made in Japan」の製品の素晴らしさを何度も感じた経験から、日本が誇れるモノやコトを世界中の人々に届けていきたいです。



体験談 短期研修

(イギリス・オックスフォード大学)
居初 咲佳(経営3)

オックスフォ

ード大学では、政治・メディア・文学に関する講義を2週間受講しました。少人数制の授業では、一人一人の意見が求められるため、自分の考えを言語化することに苦戦しましたが「問いに対する正解はない」という前提のもと、学生の意見を尊重してくれる教授のおかげで、自分なりの考えを発信できました。

特に印象に残っているのは、AIの進展がもたらす影響についての講義です。現役ジャーナリストの講師から「気づかれていない価値を提供することが自分の役目だ」と学び、AIが提供できるものは単一的である一方、人間の価値観は多種多様であり、そこに私たちの存在意義があると実感しました。今後も幅広い知識と経験を積み、他者の価値観を認められる人材を目指したいです。

また、普段の大学生活では出会えない学生たちと学年を超えて交流するなかで、それぞれの生き立ちや苦労を知り、困難を乗り越えながら自分の夢に向かう姿勢に多くを学ぶ貴重な機会にもなりました。



グローバル教育センター からのお知らせ

2025年度春学期 留学プロモーション月間

■春学期留学ガイダンスと情報入手方法

4月10日と14日の昼休みに本学の留学プログラム概要を説明する留学ガイダンスを実施する。加えて、春学期中の各種留学プログラム情報や募集、実施スケジュールは、4月に2号館1階、メインエントランスにポスター掲示を行う。

また、グローバル教育センターからの各種案内は、My Sophia(大学からのお知らせ「留学・国際交流」やファイル共有など)で見ることができる。グローバルな学びに興味のある方は、定期的に確認してほしい。

■夏期休暇以降実施予定のプログラム募集について

交換留学は25年春開始分の学内選

考願書受付を6月初旬に実施する。詳細は4月中旬以降Loyolaで公開予定だが、応募検討中の方は、過去の募集要項の確認や出願に必要な語学スコアの取得等は進めておくことを推奨する。

夏期休暇中の海外短期プログラムについては、4月中旬のお昼休みの時間帯に説明会(対面)を実施予定。

短期プログラムへの参加を希望する学生は、説明会に参加したうえで検討してほしい。

■留学カウンセリング

2025年度も在學生向け留学カウンセリングが利用可能。常駐の留学カウンセラーへ留学に関する相談が対面、オンライン可能。1枠あたり30分の完全予約制。日英で可。大学の制度に関する質問に留まらず、留学全般の相談や将来の留学に向けた相談も可能なので、積極的に活用してほしい。



全員で記念撮影

【団体表彰】

■特定非営利活動法人 YNF(代表：上智福岡中学高等学校卒業 江崎太郎)：自然災害における災害ケースマネジメント実践

■上智大学ローバース(代表：経済学部経営学科3年 江口亮太)：珠洲市教育支援プロジェクト

■上智大学フェンシング部(代表：経済学部経営学科2年 竹内崇泰)：東京パラリンピック出場選手と学ぶ「車いすフェンシング体験会」

団体の6件が選出され、サリ・アガスティン理事長から表彰状、大塚寿郎総務担当理事から副賞がそれぞれに授与された。

受賞者は次のとおり。

【個人表彰】

■水谷裕佳(上智大学グローバル教育センター教員)：沖縄の自然環境と歴史や文化の保護に寄与するアウトリーチ活動

■Rosa Barbaran(上智大学国際教養学部卒業)：日本における難民の支援活動

■柳谷晃子(上智大学大学院神学研究科神学専攻修了)：日常生活のなかでキリストを生きてキリストを伝える